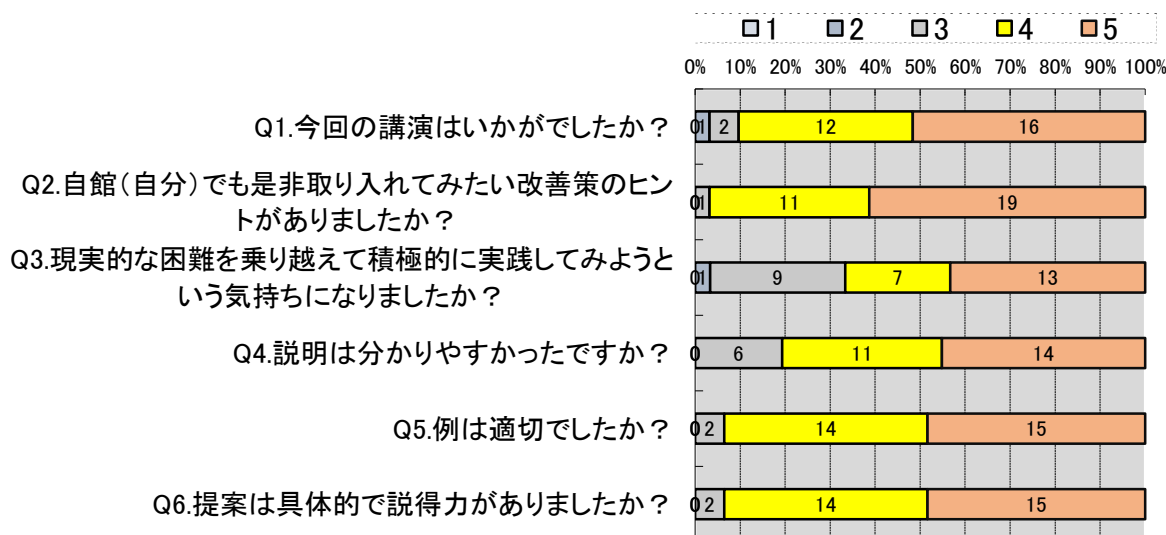


第 44 回 私立大学図書館協会西地区部会中国四国地区研究会アンケート結果

日時：平成 26 年 9 月 4 日（木） 会場：山陽学園大学 多目的ホール

講演テーマ「驚くほど学生が集まる図書館演出術-少人数職場だからこそ今すぐできる即効アイデア-」

講師：仁上幸治 氏 参加者：39 名（28 大学）有効回答：31（79.5%）総合満足度：4.39（5 点満点）



< 個別記述 >

Q1. 印象を一言で

- ・ 奇想天外だが直球ど真ん中。
- ・ 「広く、一部深く」の印象でした。（ざっくりですみません。）
- ・ 発想の転換が必要だと感じた。
- ・ 図書館業務部外者から見れば、図書館員が疲れているとは見えないようだが、現在の図書館を取り巻く環境の変化は、疲れをもたらす要素が多い。しかし、弱音をはくだけでなく、与えられた状況で何が出来るかを考えていく方が、希望が持て、意識も変えられる
- ・ 盛りだくさんで、ついていくのがやっとでした。（ついていきかねている部分もありますが）
- ・ 前向きな気持ちになりました。
- ・ 最初は、泉谷しげるさんのような怖い感じの先生かと思いましたが、お話を聞くことにより、楽しく気さくな先生。テーマ取りも上手で、"リラックスして、図書館でじっくり働きましょう！"の優秀なお話が聞けました。
- ・ 大変すばらしい講演でした。リザーブ図書・ブランディングについて、初めて学びました。
- ・ 亀の先生（いい意味で！！最初に？かめ？どうやって図書館につながるんだろう？と気持ちをまさにツカめました！）
- ・ 好奇心旺盛で、研究熱心、沢山の情報に裏打された資料、大変参考になりました。
- ・ つかみがとてもお上手です。さすが！
- ・ すごい
- ・ カメさん動画が色々な伏線が含まれていたのだと構成の細やかさに脱帽です。
- ・ 楽しかった
- ・ あっという間の時間。
- ・ 色々と考えさせられた時間
- ・ まず、スライドの数を見て、相当努力されている方だと思いました。カメの動画を見せてもらったときは、「講演」という固定観念を覆すようでした。
- ・ あきさせない楽しい講演でした。
- ・ 事例中心のお話をしていただき、わかりやすかった
- ・ 固定観念を取り除いた運営が必要であると感じました。

- ・テクニックが工夫されている。
- ・仁上先生、講演の中でご紹介いただいた司書の方々もとてもパワフルで圧倒されました。沢山の事例とご提案をいただいて 2 時間の講演があったという間でした。
- ・とてもアクティブ。留まることを知らず、という感じがしました。
- ・クサガメがとても可愛かった。利用者を増やすために何をすべきか、具体的な目標がわかった。自分の勉強不足がよくわかった。
- ・楽しかったです。アイデアがあちこちに転がっているので、まずは、他大学の取り込みを参考します。
- ・刺激的なお話でした。
- ・たくさんの資料&情報！
- ・仁上さんのノリノリのライブを知っているので、今回は乗り切れなかった様子。
- ・テーマに沿った内容には感じなかったが、例え話が豊富で理解しやすかった。
- ・53 分（前半部分）は総花的であり、あまり興味が持てなかった（13：22～14：15）。ラスト 20 分は、技術的ではあるが、役立つと感じた（14：40～15：00）。

Q2.自館（自分）でも是非取り入れてみたい改善策のヒントがありましたか？

- ・リザーブ図書（やってくれそうな教員がいる）
- ・情報発信（SNS）
- ・各種様式の見直し
- ・「小さな図書館の強み」「やる！（とにかくやろう）」
- ・研究室への働きかけ
- ・小さいことから、思いついたことを実践していきたい。そのための企画力をいろいろな方からアイデアをいただきながら、生かしていきたいと思う。
- ・「手間を省くために手間をかける」省くための手間が必要というのは目からうろこでした。
- ・リザーブ図書の充実や「利用せざるを得ない」状況作り。
- ・積極的に図書館へ学生を呼ぶ努力を惜まず、はずかしがらずに行うのが難しく（疲労も関連）感じますが、脱皮の怖さを感じます。
- ・ICU 図書館について目からのうろこでした。図書館員一人ひとりの発想の転換の必要性を感じました。
- ・ショートカットキーの使用、ILL 申込欄に事前に予算などを設けておく & チェック方式にデータベースなどの宣伝をする、誰も借りられない本の紹介
- ・リファレンス申込用紙
- ・リザーブ図書、研修の振り返り
- ・リザーブブック制度、帳票の作りかえ
- ・ショートカットキーで時短から取り入れます。
- ・街に出よう。市民講座に私も講師で参加しよう。
- ・学外に出て市民への図書アピール（高齢者対象に）図書館へ行って知的関心を高めよう
- ・発想の転換：昨年どおり・・・というセリフを聞かない環境に。
- ・教員との連携についてもう一度策を練り直したい。
- ・ILL の申込用紙は大変参考になりました。
- ・PULL 方式→PUSH 方式へ。リザーブ図書制度。
- ・リザーブ図書制度に取り組みたいと思います。まず、協力的な教員から相談してみたいです。
- ・徹底的に質を up する。リザーブ図書 etc
- ・協力していただけたような教員をターゲットにして研究室へ攻め込み。帳票の見直し（データベースの宣伝や利用案内の役割を持つ LL 申込書）はすごいと思いました。あとはショートカットキーを使いこなせるようにする。
- ・使えるものはすべて使う（今もしていますがもっとできそうだと思います）
- ・リザーブ図書・・・カリキュラムに対応した推薦図書の類はあるが、推薦と場所の存在を知らない学生もいるのでまずは周知から。教員とこれまで以上の協力関係を築きたい。
- ・「できない」の言葉を使わないよう、「強制的」をモットーにしたいです。
- ・まずはショートカットキーから始めます。無駄を省く努力。
- ・「できない」と言わない（難しいですが…）
- ・ILL の申込用紙の、論文同定度の確認。
- ・帳票類の見直し、宣伝効果があるということの活用。
- ・ILL 申込書の工夫、リザーブ図書

Q3. 現実的な困難を乗り越えて積極的に実践してみようという気持ちになりましたか？

- ・ になりました。ジリ貧なので。
- ・ モチベーションがあがりました。やれば出来る（事もある）気持ちを実践してみようと思います。
- ・ 手続き的に難しいことはあるがトライしてみようという気にはなりました
- ・ 1人では難しくても、教職員の協力を得ながら、積極的に出来ることがあると思った。まずは、教員とのコミュニケーションが必要。
- ・ 常に前途多難かつ困難だらけですが、やり続ける。こりずにやってみようという気持ちになりました。
- ・ 「省力化ギリギリの努力」から始めてみようと思いました。時間を作り、もっとサービスを充実させたいです。
- ・ “図書館の疲労”まさにその通りで、人数の少ない職員の図書館は、残業がつきもので、いい意味、悪い意味、図書館の労働を感じ、達成感と失望感を感じます。
- ・ 「謙虚を装う怠慢」という言葉で、仕事に対する自分の姿勢を見直す必要性を感じました。
- ・ {省力化への努力をしているか？していないのに忙しいといっはダメ、謙虚を装う怠慢になっていないか、どうせは×あきらめたら何もできない} 耳がいたかった。職員が少なく忙しい。疲れきってしまっているのはどの館も同じ。言い訳をせず動けることから動かねばと思った。
- ・ 発想を変えて身近なところからやってみたい。
- ・ 自分が決めれば、即実行となるため。
- ・ やらないと何もはじまらないと思いました。
- ・ 非常勤、ジリ貧そのものの立場なので正直なかなか・・・
- ・ 先生の話聞いていたら出来そうな気がする
- ・ 気持ちは高まりました。同時に、課題が浮きぼりになりました。知識をつけ、経験を積み、分析をしたいです。
- ・ 楽しそうに活動している様子を見て。
- ・ 本学では図書館員が5名中4名移動や退職をするというとても危機的な状態です。危機を心機一転の機会ととらえ新しいことに挑戦したいです。
- ・ リザーブ図書、ライティング支援
- ・ 一人でも可能な改善策を教えてくださいましたが、大学に戻り1人で始めることを考えると気が遠くなってしまいます。積極的に実践とはいけませんが少しずつでも前に進んでいきたいです。
- ・ 現状をなげいていてもどうにもならない、却って停滞、悪ければ後退、もしくは何もない、ということになりそう。
- ・ 設備だけが新しくなり、考え方が古いままなのかもしれないと気づいた。
- ・ になりました。限られた予算の中でできるところを行う、ことを実践します。
- ・ 講演を聞かせていただいた直後は、すぐやろうと思いました、時間がたつにつれ、困難な理由ばかり浮かんでくる。
- ・ 日々のルーティンワーク（先生のおっしゃる図書館の壁ですね）の見直しが必要かと思えましたので。
- ・ 今回の講演で改めて、ということはないです。
- ・ 前例主義を打破するヒントがあれば
- ・ 積極的に仕事をしているつもりなので。現実的困難は、大学の図書館の専門性を認めていないこと。

Q7. もっと詳しく聞きたかった点はどういう点ですか？

- ・ ブランディングについて
- ・ 図書館におけるブランディングについて。
- ・ コースバックについて（日本での問題点について）
- ・ ブランディングの過程の事例について
- ・ 内容が盛りだくさんだったので、半分ぐらいの内容で、多くの事例を見たかったです。
- ・ 配布資料（別3）のリザーブ図書とシラバスについて
- ・ 早稲田大学図書館の気質というか雰囲気を知りたいです。また、法政大学の図書館の雰囲気もお聞きしたかったです。（法政大学OBです。）
- ・ クサガメの話のツカミがとてもすばらしかったです。自館のブランディングがすぐに何かと答えられない自分に気づかされました。ありがとうございました。
- ・ リザーブ図書の募集、PR方法、問題点（複本増えるが、その本が不要になった際（先生の退職等により）どのようにしているかスペース不足しないか）まとめてコーナーを設けているのか等、自館がリザーブ図書を実

施していないのでもう少し聞きたかった。

- ・リザーブ図書の充実、研究室単位のインストラクター制度の運営
- ・ライティング支援について
- ・カメの名前
- ・ハードコア・ノンユーザーの件。ただ、研修会の様子が紹介されているサイトを教えていただいたので、そちらを拝見します。
- ・利用せざるを得ない状況づくり、教員との連携のとり方
- ・ブランディング
- ・街を出るについて
- ・具体的な少人数職場で人を集める方法
- ・時間が短かったのか、われわれの反応がなかったのか、一部事例を割愛されたのが残念であった。
- ・教員とのコミュニケーションの仕方
- ・リザーブ図書の充実を少人数（予算が少ない）図書館でどのようにすれば可能かという点。
- ・内容がすべて濃くて聞きなれないことが多かったので、もう一回、もっと時間をかけて、か、連続講座みたいな形で聞きたかったです。
- ・リザーブ図書について。推薦図書との違い。
- ・総論よりも、もう少し詳しい各論的なものも聞きたかった。ILL 申込用紙のような実例をもっと欲しかった。
- ・アンケートの分析
- ・研究室に乗り込む事例、具体的な教員側の要望
- ・（言葉の定義を明確にしないままに、次々と話が進んで行きすぎ。）パスファインダーの存在価値と図書館員の関係。

Q8. 講師へのご要望・ご助言など

- ・興味ひかれるお話をありがとうございました。図書館関係の研修に参加したのは初めてでしたので、勉強になりました。
- ・気さくに聞きやすく講演いただきありがとうございました。最初のつかみが絶妙でした。
- ・参考になる HP もたくさんご提示いただいたので、ぜひ拝見します。機会がありましたら、再度ご講演を拝聴したいと思います。
- ・貴重で“楽しい”お話をありがとうございました。先生のカメのお話に匹敵するようなネタを作り、ガイダンスで使ってみたいと思います。
- ・本当に講演ありがとうございました。気持ちのいい関東弁がよかったです。法政大学も司書課程を 7 年程前に通信教育部に設置したのを記憶しています。仁上先生にもお世話になっていると思います。
- ・先生の講演が終わった際「つかれた」ではなく「あ〜楽しかった」であった。プラスでがんばろうというやる気を胸に強く残してくださった講演でした。中国地方での講演をできれば増やしていただけたらうれしいです。あれば必ず行きます、行きたいです！（今後の講演、行ってみたいと思う内容のもの多かったが残念ながら遠方となり参加不可となってしまうため）
- ・ありがとうございました。楽しく、有意義でした。今後こういう講演を聴く機会をさらに増やしていただきたいと思います。
- ・話が面白く、色々と参考になりました。
- ・先生のワークショップ形式の講演に参加したい。
- ・図書館職員ではありませんが、教員としては授業に活かせる内容でした
- ・ぜひ、数回にわたる講師として、お話を聞かせていただきたい。
- ・もう少し伝えたい情報をコンパクトにまとめたら、より分かりやすかったように思う。
- ・同上（内容がすべて濃くて聞きなれないことが多かったので、もう一回、もっと時間をかけて、か、連続講座みたいな形で聞きたかったです。）
- ・もう少しゆっくり話して欲しい
- ・西日本のかたがたの多くは、びっくりする程東日本大震災のコトを知りません。そのコトを仁上先生がご存知ない様子なのが逆に新鮮でした。
- ・聞く側のノリが悪いというのはわかるが、盛り上げるようなパフォーマンスがあればと思う。
- ・時間配分が悪すぎる。よい内容は「チョットだけ」見せているように感じた。テーマと実際の講演内容が異なりすぎる。

（記録：堀田、河本（山陽学園大学・山陽学園短期大学図書館）・修正：仁上／2015.2.3）